



なみのゆうぎ

波ベンチではなれてつなぐ

Graduate School of Engineering Faculty of Engineering

コロナウイルスの発生により、屋外で活動することが多くなった。自然科学3号館南側のオープンスペース周辺は地域の人も学生も多く通るため、「はなれてつなぐ」空間デザインを行うことで、今までは違う広場に変わる。以下の①~⑤を重要項目としてデザインを考え、友達同士も、ふらっと来た人同士もつながるあたたかい広場を作る。

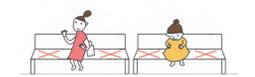
- ① 今までは違うデザインの考え方を元にコンセプトを組み立て、新規性のあるデザインを生み出す。
- ② 人の流れに動きを持たせる配置デザインを行い、このベンチをきっかけに人の行動に変化をもたらす。
- ③ 一体感のあるデザイン、幾何学的配置による視線の操作によりコミュニケーションを促す。
- ④ 地域の人、学生、芝生上で遊ぶ子ども等、状況に応じた憩いの場を提案し、多くの人が安全に利用できる。
- ⑤ 空間を作る上で最低限必要な要素を取り入れ、低予算で実現できる案を考える。



Concept



今までのデザインは、1つのものに複数座って利用できるものが一般的で、1つのファニチャーを複数の人と共有することで、「人と人とのつながり」を獲得していた。



コロナ対策として1m~2mのソーシャルディスタンスを取らなければならない今、その距離以下で座ってしまう可能性があるところには規制するための張り紙やロープがはられてある。

コロナ禍において、一人一人の占有面積は広がった。しかし、「ゆったりした空間の中が1~2mの距離はとり、コミュニケーションを取る」ことをデザインすることは、まだ実践されておらず、今のままだとゆったりとしているがくつろげる空間にはっていない。

Idea



板ベンチ (従来のベンチ)

今までは複数で複数で座っていたが、今は1人で座らないといけない。占有面積は広くなりゆとりがあるが、複数で座らないように規制しないといけない。

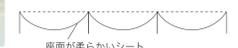


座面が木材などの固い板

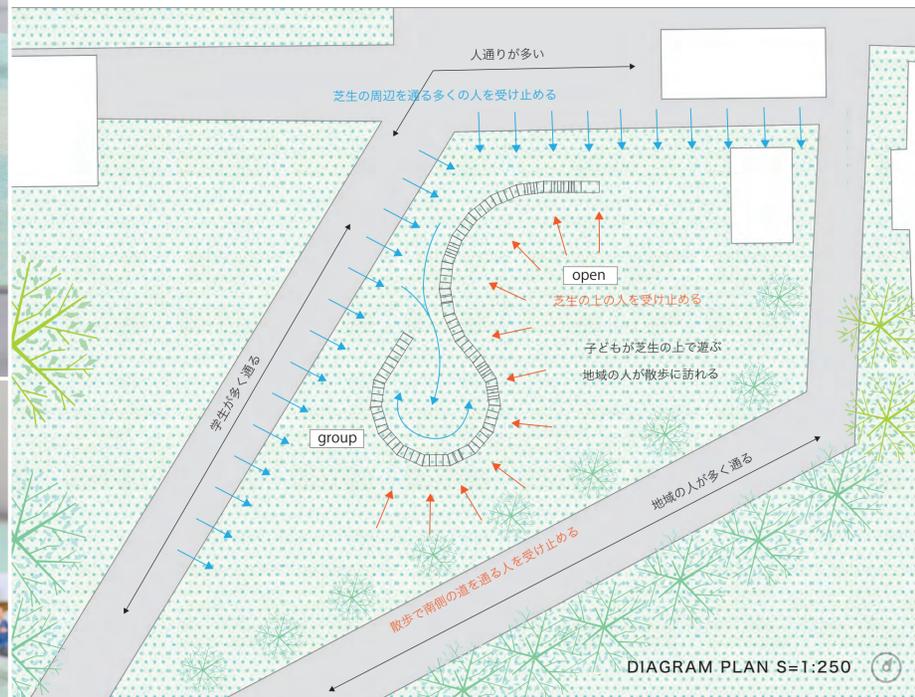


波ベンチ (提案ベンチ)

座面が布のベンチに座るときは、自然と布の真ん中に一人で座ることになる。ベンチ形態や影が「波」のようになり、海に近い神戸にあったデザイン。



座面が柔らかいシート



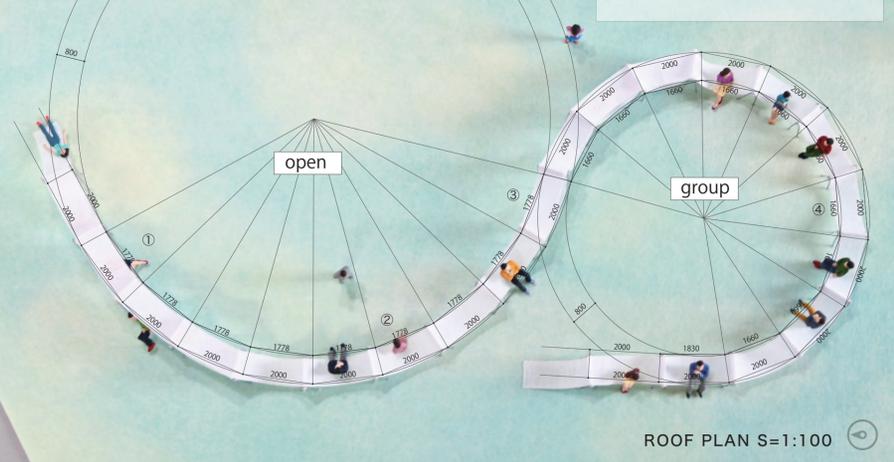
①	・横とのつながり	□□□□	③	・横とのつながり	□□□□
	・グループでのつながり	■□□□		・グループでのつながり	■□□□
	・プライバシー性	□□□□		・プライバシー性	□□□□
②	・横とのつながり	■□□□	④	・横とのつながり	■□□□
	・グループでのつながり	■□□□		・グループでのつながり	■□□□
	・プライバシー性	□□□□		・プライバシー性	□□□□

open ... 公共性がより高いエリア

芝生の周辺を通る多くの学生や、芝生の上で遊ぶだけりたりする地域の人を受け止める。

group ... 集客性がより高いエリア

円の半径が小さく、中心性が高いため、屋外でのゼミなど、集まることにも適している。円の外側は、「open」と同じように周辺の人を受け止める。



Expense plan

使用する材料	必要量
田島ルーフィングパーマリュウム EM プレーン 厚さ 2.0mm 2,850 円 / m ²	0.8m×90.0m=72 m ² →205,200 円
木材 角棒 35×35×2985mm	2985mm×50 本 →13,000 円
260 円 / 本	
合計	218,200 円

ELEVATION S=1:150



木杭

木杭を用いることで、地面に確実に固定するだけでなく、低コストで施工することができる。



複層ビニル床シート FS

座面は丈夫で低コストな田島ルーフィングのビニルシートを使用する。特殊UVコーティングによる美観維持性能や抗菌性能を備え、表層がマットな質感となっている。

視線が抜けている

プライベートなスペース
：屋外で過ごす時間が増えたため、オープンスペースであっても個人でくつろげる空間も必要になる。



座面と同じ言語でできた屋根は、どの時間帯でもくつろぐ人に影が落ちるようになっている。

高さを高くしていくと、視線の操作によってプライバシー性が高くなる

視線が抜けている

プライベートなスペース

